

第89回北海道医学大会総会

常任理事·学術部長 渡邉 直樹

本年は、旭川医科大学の吉田晃敏学長を会頭とし、39分科会が参加して北海道医学大会が開催された。9月26日(土)の総会では、北海道医師会賞ならびに北海道知事賞贈呈式、各科トピックスや厚生労働省医政局指導課 新村和哉課長による特別講演「これからの医療の課題」等があった。

今回は、各科トピックスの講師の諸先生にお願い し、寄稿していただいた。

◆各科トピックス

第1席 「北海道からの災害医療の発信と展望」 札幌医科大学医学部救急・集中治療医学講座 教授 浅井康文 座長 北海道大学大学院医学研究科救急医学 教授 丸藤 哲

第2席 「シナプス回路発達の分子メカニズム」 北海道大学大学院医学研究科解剖発生学

教授 渡邉雅彦

座長 札幌医科大学医学部細胞生理学講座 教授 當瀬規嗣

第3席 「先天性副腎疾患Update-病因・病態の多様性」 旭川医科大学小児科学講座

教授 藤枝憲二

座長 札幌医科大学医学部小児科学講座

教授 堤 裕幸

第4席 「今日の職業性呼吸器疾患

- 最近の我々の研究から - 」

北海道中央労災病院

院長 木村清延

座長 北海道医師会

常任理事 渡邉直樹

北海道からの災害医療の発信と展望

札幌医科大学医学部救急·集中治療医学講座¹⁾ 国際緊急援助隊(JICA)²⁾

 教授
 浅井
 康文 1).2)

 講師
 丹野
 克俊 1).2)

 講師
 森
 和久 1)



浅井教授

はじめに

日本の災害の歴史を変えた事例は、1923年9月1日の関東大震災と1995年1月17日の阪神・淡路大震災であろう。阪神・淡路大震災は、人口150万都市・神戸市を中心に兵庫県南部の市町村を直撃し、死者6,425人の未曾有の被害をもたらした。また環太平洋地震帯がある日本は、地震、火山噴火が多く、特に津波は過去の歴史で日本に多発している。

北海道は1992年の本邦最大の千歳高速道路多重玉 突き事故、1993年の釧路沖地震と北海道南西沖地震、 1996年の豊浜トンネル崩落事故、2000年の有珠山噴 火とYOSAKOI SORANのテロ事件、2007年の佐呂間竜巻 災害など、災害が多発している地域である。一方、 2005年ニューオーリンズー帯を襲ったハリケーンカ トリーナや、2009年11月末のサウジアラビアの洪水 で11人死亡、巡礼にも影響などの報道に見られるご とく、温暖化現象などで世界的に異常気象が報告さ れている。

本稿では日本と世界の災害の現状を述べてみたい。

1. 日本の現状

環太平洋地震帯に属している日本列島では、地球上の約15%の地震が発生するといわれているほど地震が多い。現在の科学技術では地震という自然災害そのものを防止したり制御したりすることはできないが、地震災害による被害を極力軽減させるためには予知を含む防災関係機関の連携と継続的な努力が必要である。これには耐震建築の普及も必要である。わずか分秒の間に人命や財産を脅かすような環